



食品中の放射性物質による健康への影響について、ご存知ですか？

放射性物質と食品に関するQ&A

放射性物質による子供への影響が心配です。

小児への影響を考慮し、乳児用食品及び子供の摂取量の多い牛乳については、一般食品より厳しい数値が設定されています。

なお、文部科学省の放射線審議会においては、「乳児用食品及び牛乳に対して50ベクレル/kgという特別の規格基準値を設けなくても、放射線防護の観点においては子どもへの配慮は既に十分なされたものであると考えられる。」とされています。

流通している食品は安全ですか？

これまでに出荷制限指示の対象となった自治体と、その隣接自治体である青森県から静岡県に至る17の都県においては、生産する食品の放射性物質の検査を行い、基準値を超過する食品が出荷されない対応がとられていますので、流通食品は安全であると考えています。

なお、愛知県においても、県内流通食品の放射性物質の検査を計画的に行い、「食の安全・安心情報サービス」で公表しています。

食品中の放射性物質の基準について

福島第一原子力発電所の事故に伴い、食品中の放射性物質に関する暫定規制値が緊急的に設定され、食品の出荷や摂取等の指標とされてきました。「暫定」とはいえ、十分安全性を見込んだものとして評価されていましたが、より一層、食品の安全と安心を確保するため、平成24年4月に新たな基準値が設定されました。



食品中の放射性物質の新たな基準値

食品区分	基準値 (ベクレル/kg)
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品	100

基準値の設定の考え方は、食品の国際的機関であるコーデックス委員会の指標(年間1ミリシーベルト)を超えないよう、乳児から成人に至る年齢階層及び男女別に食品の摂取量から放射性物質の影響を換算し、最も厳しい(小さい)値(120ベクレル/kg)を踏まえて基準値は設定されています。

詳しくは「食の安全・安心情報サービス」をご覧ください

<http://www.pref.aichi.jp/eisei/anzen.html>

平成23年9月から11月に、福島において行われた、食品からの放射性物質摂取量の調査によると、放射性セシウムで年間0.0193ミリシーベルトであり、健康への影響は問題ない結果でした。

消費者をはじめ、生産者、小売業者など全ての関係者が、放射性物質と健康影響に関して適切な判断ができるよう、正しい知識を身に付けていただくことが望まれます。

(生活衛生課)